家畜衛生情報誌　第110号
対　馬

季節はずれの桜（9月　万関橋にて撮影）

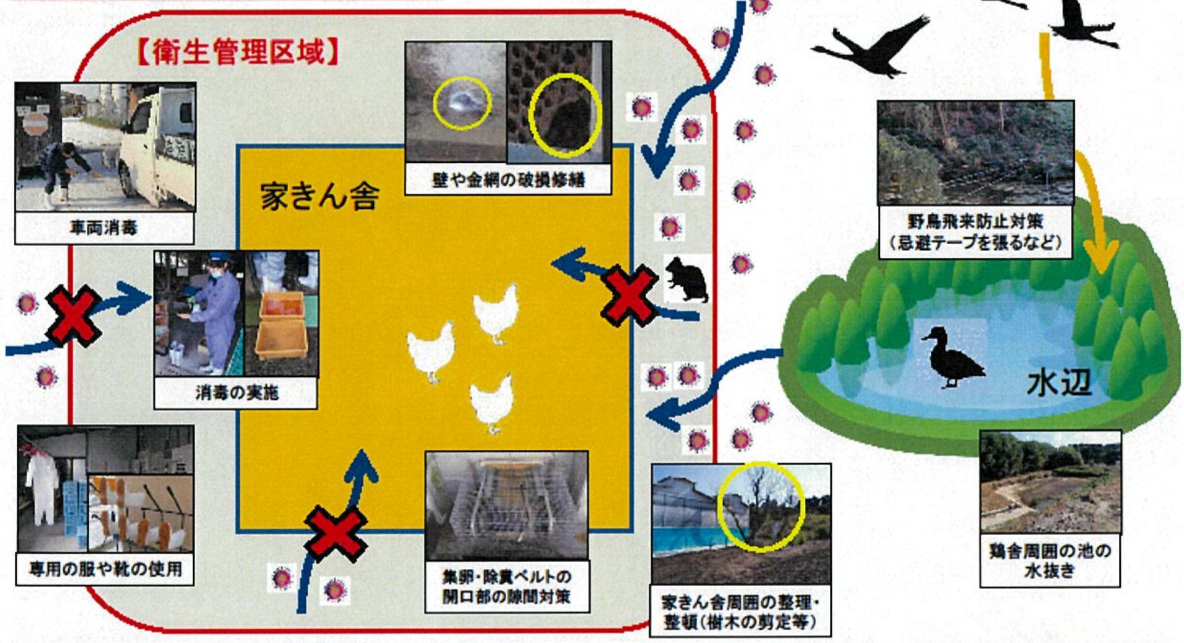
令和2年　秋号
長崎県対馬振興局農林水産部家畜衛生課
（　対馬家畜保健衛生所　）
〒817-0322　長崎県対馬市美津島町雞知乙110-4
☎　：0920-54-2179　　FAX：0920-54-3149
e-mail：s14220@pref.nagasaki.lg.jp

鳥インフルエンザ予防対策の徹底をお願いします！

　11月５～21日の間に、香川県の養鶏場において高病原性鳥インフルエンザ（H5N8亜型）の発生が８例確認され、約140万羽の鶏が殺処分されました。さらに２５日に福岡県宗像市の養鶏場においても高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されました。野鳥関連では北海道、鹿児島県において糞便やねぐらの水から鳥インフルエンザウイルスが確認されいます。隣国韓国においても野鳥からウイルスが確認されている状態で、本病の侵入リスクは非常に高い状態です。（令和2年11月25日時点）

　本病の発生防止のためには、ウイルスを家きん舎内に持ち込まないことが重要です。家きんを飼養する皆さまは、自農場等の飼養衛生管理基準の遵守状況を再確認し、最大限の警戒態勢をとるようお願いします。

予防対策の重要ポイント



①人・物・車両によるウイルスの持込み防止
- 衛生管理区域、家きん舎への出入りの際の洗浄・消毒の徹底
- 衛生管理区域専用の衣服、靴、家きん舎ごとの専用の靴の使用
- 上記措置の記録

②野生動物対策
- 防鳥ネットの設置・修繕、壁の破損・隙間の修繕
- 家きん舎周囲の清掃、整理・整頓
- 上記措置の定期点検

周辺に水辺のある農場は①、②の予防対策を徹底

（リスクを減らす取組（季節を限って水を抜く、野鳥を寄せ付けないよう忌避テープを張るなど）が効果的）

小規模な家きん飼養農場における取組事例

漁網やネット等を活用した野生動物の侵入防止対策	消石灰の散布や踏込消毒槽の設置による消毒の徹底	寒冷対策を兼ね、シートを張った野生動物の侵入防止対策

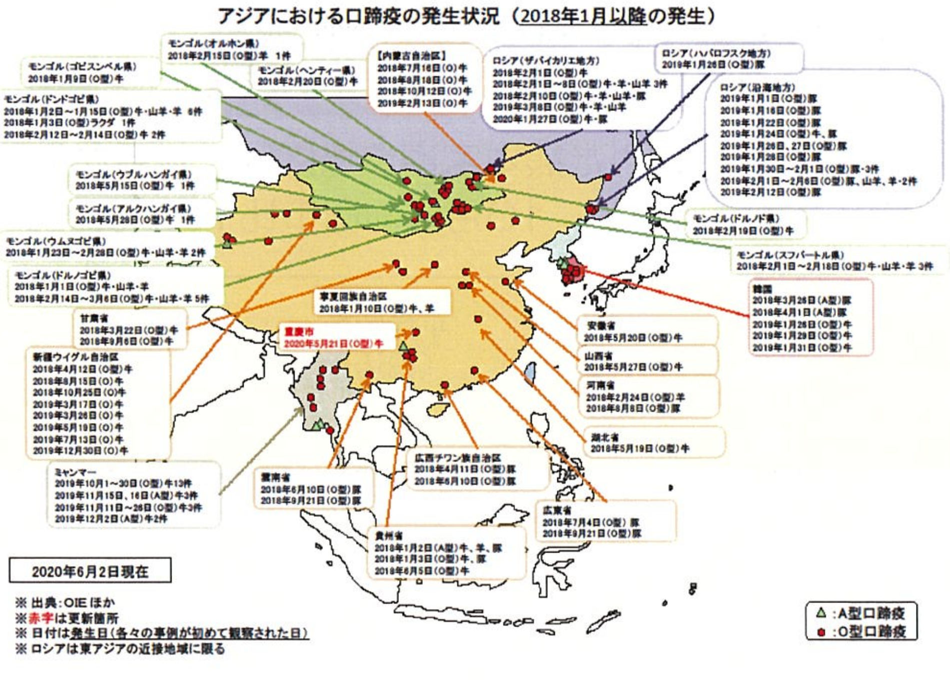
対馬地区鳥インフルエンザ防疫演習を開催しました

11月17日、対馬市、団体等および振興局の関係者出席のもと、令和２年度対馬地区鳥インフルエンザ防疫演習（出席者約30名）を開催しました。

対馬で高病原性鳥インフルエンザが発生した場合の防疫対応や関係機関の役割の説明を行い、防護服等の着脱や鶏の捕鳥作業の実地演習を行いました。

近隣諸国における口蹄疫発生情報

平成22年の宮崎での発生以降、国内における口蹄疫発生は確認されていませんが、近隣諸国（中国など）では本病の発生が確認されています。牛飼養農家の皆様におかれましては、引続き飼養衛生管理基準を遵守し発生予防に努めていただくようお願いします。



子牛の寒さ対策は万全に！

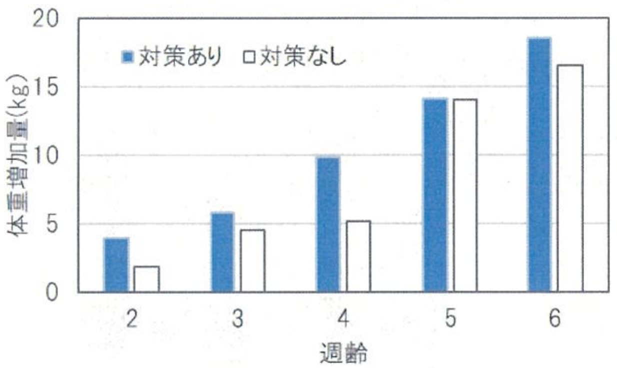
冬場は、寒さと換気の両方の対策が重要です。

①寒さ対策のため、牛舎内を締め切ってしまうと、昼夜の寒暖差やアンモニアガスによって抵抗力の低下を招き、ウイルスや細菌等に感染するリスクを高めてしまいがちです。そのため、十分な換気をとることが重要となります。子牛にカーフジャケットやネックウォーマーを着せたり、畜産用ヒーターや湯たんぽを設置するなどの対策を施しましょう。

②牛床で体表面が濡れ子牛の体温が急激に奪われ下痢を引き起こす可能性があるため敷料をたっぷりと投入し、交換する頻度を高めましょう。

③子牛へ直接冷たい風が当たらないよう牛舎の引き戸のすきまをできるだけ塞ぐとともに、休息場所上部をシートやコンパネで覆いましょう。この対策により、シート下部（休息場所）の温度低下が抑えられ、夜間において３℃程度高めることができます。

カーフジャケット着用子牛



すき間対策が体重増加へ及ぼす影響
（根釧農試2015）

※対策あり：牛舎妻面の引き戸のすきまを塞ぎ、
休息場所上部をシートで覆う

熊本家畜市場成績

10月に開催された熊本家畜市場には、対馬から計16頭の褐毛和種子牛が出荷されました。10月は前回市比102%、前年市比101%でした。

	取引頭数（頭）	最高価格（税込）（円）	平均価格（税込）（円）	平均体重（熊本市場）（kg）	kg単価（円）	前回市比（平均価格）（%）
去勢	9	746,900	699,844	343	2,042	114
雌	7	713,900	535,386	280	1,909	118
合計	16	746,900	627,894	315	1,991	102